

住民参加型ワークショップを用いた避難所の ペット同行避難マニュアル作成の効用に関する研究

徳島大学 学生会員 ○山崎菜摘 徳島大学大学院 正会員 田村隆雄
徳島大学大学院 正会員 武藤裕則

1. 背景と目的 東日本大震災時に避難所にペット同行避難ができなかったことで、ペット飼育者がエコノミークラス症候群を発症したことや、避難所では飼育者と非飼育者の間でトラブルが発生した、徳島県は巨大南海トラフ地震による津波の被害が特に懸念されているが、その災害対策としても、早急なペット同行避難マニュアルが必要であることから、各避難所において一次避難時のペット同行避難マニュアルを作成し避難体制を整えることが大切である。そこで本研究では、運営者、ペット飼育者、及び非飼育者で住民参加型のワークショップ（以下WSとする）を行うことによって、人々のペット同行避難に対する意識の変化がどのように変化するかについて、アンケートで調査し、三者がトラブルなくお互いにストレスのない避難所生活を送ることを目的にした。

ここで、「同行避難」とは、災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行し、避難所まで安全に避難することである。避難所において人とペットが同一の空間で居住できることを意味する同伴避難とは区別する。

2. 対象施設について 佐古コミュニティセンターは、徳島市の中心部に位置し、施設は津波災害時の避難場所（収容人数 382 人）である他、長期避難の避難所（収容人数 87 人）にも指定されている。徳島県内では、徳島市津田・新浜地区が地域防災訓練にペットの同行避難訓練を取り入れているが、詳細なマニュアルはない。そして、徳島県内で避難所のペット同行避難マニュアルを作成している地域もないのが現状である。つまり、ペット同行避難マニュアル作成を行ったのは、本研究対象地である当施設が初めての試みである。

3. 現状の住民のペット同行避難に関する意識 WS 以前のアンケートから、ペット同行避難により発生した事件や問題を認知している人は少なくないが、徳島県で行われているペット同行避難に関する防災対策や防災訓練についての関心が低いことや、図 1 に示すように、避難所がペットを受け入れている事の認知度が低いことが分かった。ペット飼育者と非ペット飼育者では、ペット同行避難に対して正反対の意見を持つため、同行避難をしたいと考えるペット飼育者が平時の避難準備対策をしっかり行い、同行避難の際は決められたルールをきちんと守り、最大限に周りに配慮する必要があると考えられる。また、非ペット飼育者は、ペットが苦手という人でも受け入れられる最低限の条件を示していく必要があると考えられる。

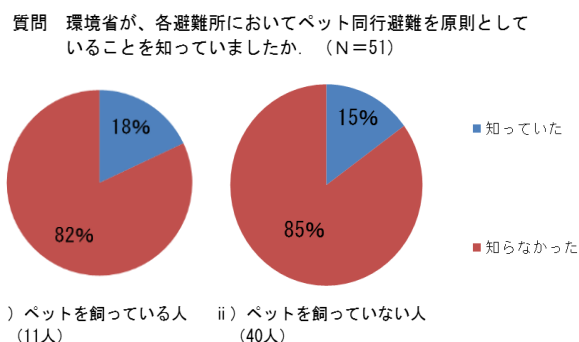


図 1 避難所のペット受け入れ許可の認知状況

4. 住民参加型 WS 実施とアンケート調査 避難所のペット同行避難マニュアル作成を行うにあたって、佐古コミュニティセンターで住民参加型WSを4回実施した。主な参加者としては、佐古地区の一般住民（ペット飼育者、非ペット飼育者）、佐古地区自主防災会会員、佐古婦人会会員、及び、佐古コミュニティセンター施設管理者で、平均 20 名である。表 1 は、WS の開催日時、主な内容、参加人数をまとめたものである。ペット同行避難マニュアル案完成後、WS 参加者 17 人にアンケートを行った。住民参加型WSによるペット同行避難受け入れマニュアル作成の効果として、17 人全員が“効果がある”と回答した。その効果として、①平時のペットのしつけの大切さが分かること、②様々な立場の意見が聞けること、③災害時に全員が対応しやすくなること、④避難訓練を実践しやすくなること、などが挙げられた。これらから、住民参加型WSに参加した人にとって、お互いの気持ちを理解することができて、ペット同行避難の受け入れ体制を整える気持ちが強くなった

といえる。また、マニュアル作成の効果の信憑性を高めるために、佐古地区内の街頭でWS非参加者150人にWSの内容とマニュアルについて説明を行った後、ペット同行避難に対する意識変化のアンケート調査を行った。結果としては、図2に示すように、説明前はペット同行避難賛成派が40%であったのに対し、説明後には約80%が賛成派になり、効果があったといえる。

表1 WSの開催日時、主な内容、参加人数

	開催日時	主な内容	参加人数
事前説明会	2017年10月14日	WS説明	約60人
第一回	2017年10月23日	WS説明、過去の事例紹介、講演、話し合いによる問題点抽出	21人
第二回	2017年10月30日	問題点の検討	17人
第三回	2017年11月13日	ペット同行避難シミュレーション	12人
第四回	2017年11月20日	ペット同行避難マニュアル（案）お披露目会、マニュアルの見直し	10人

5. WSとマニュアルの効用

表2は、「段階評価の単純集計」¹⁾により、避難所へのペット同行避難に対する賛成度を表した表である。住民参加型WS自体の効果と、参加者と不参加者の意識変化の違いから、避難所へのペット同行避難に対する賛成度を比較し、その効果を調べるために、まず、(A)WS前の住民、(B)WS前の参加者、(C)WS後の参加者、(D)マニュアルとWS説明前の非参加者、(E)マニュアルとWS説明後の非参加者に分けた。そして、全体回答数に対しての割合を算出し、避難所への同行避難に賛成の強さ応じて1～4の重みを与えて、計算した結果が表2に示されている。例えば、(A)の賛成の264は、66% (27回答) × 4 (ウエイト値) で算出している。これにより賛成度が一番高かったのは、WS後のWS参加者である。WS前だけで比べると、WS参加者は他に比べて元々同行避難に賛成している人が多いため、賛成度が高くなっている。反対にWS不参加者は賛成度が低くなっている。マニュアルとWS説明後、賛成度はWS参加者も不参加者も上がっているためマニュアル作成に効果があったといえる。WS参加者のWS前後で賛成度を比べた時、反対派が賛成派に移ったのは、住民参加型WSによる効果であるといえる。

6. まとめ

住民参加型WSを行うことによって、住民のペット同行避難に対する反対意識が軽減した。また、普段関わりがない人がWSに集まり、意見交換をすることで、様々な角度から防災対策について考えることができた。しかし、WS不参加者の中で、マニュアルとWS概要説明後に未だ反対意見の人もいるため、この人々を賛成意見に変える必要がある。このマニュアルは、完成したら終わりというものではなく、今後の防災訓練に取り入れ、マニュアルの改訂をしていく必要がある。

参考文献

1) 菅民郎：実例でよくわかるアンケート調査と統計解析，株式会社ナツメ社，pp.76-77，2014。

質問 ペットの同行避難についてどのように思いますか。（N=150）

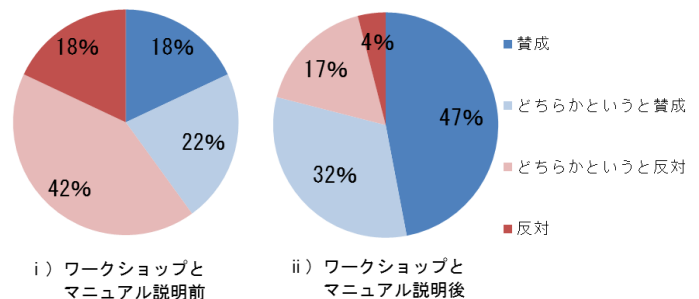


図1 ペット同行避難に対する是非の意識の変化

表2 ペット同行避難に対しての賛成度

	ウエイト	(A) (41)	(B) (17)	(C) (17)	(D) (150)	(E) (150)
賛成	4	264	164	260	72	188
どちらかという賛成	3		105	105	66	96
どちらかという反対	2		48	0	84	34
反対	1	34	0	0	18	4
賛成度（合計）		298	317	365	240	322

()は全回答数を示す